

「子どもたちの居場所に」

烏森住区センター児童館 館長 島田 正一

児童館としてはコロナ禍で、子どもたちのつながりや力を育てる機会であった、まつりなどの行事や取り組みができないことがとても残念です。

でもプレイルームでは、バドミントン、卓球、ボール遊びなど、子どもたちと一緒に密にならないようルールを考えながら、遊びを広げてきました。やっぱり思い切り体を動かす姿はとても楽しそうです。子どもたちの「やりたい！」から始まる子ども企画も、高学年たちが頑張り、カードゲーム大会を実現することができました。図工室のテーマ工作は人気で、木工工作も復活。自分で作りたいものを考えて作る中で、素敵な感性を見せてくれています。乳幼児や中高生たちも口コミで広がり、新しく遊びに来る子が増えてきました。

制限はありますが、その中で子どもの居場所として何ができるか、少しずつ児童館らしさを広げていきたいと思えます。



「コロナに負けずに」

東山中学校長 田原 弘一

烏森住区の皆様には、日頃より大変お世話になっております。

令和2年度は、学校行事のほとんどが中止、延期あるいは縮小という形で行われましたが、今年度はコロナウイルス感染症対策を徹底し、運動会も全校生徒で行い、先輩の雄姿を後輩に見せるよい機会となりました。また、文化祭（舞台の部）は、劇から合唱コンクールへと切り替え、目黒パーシモンホールで行うという新たな取組にチャレンジしました。コロナの関係で地域の方々をお招きできませんでしたが、本校の「学校だよりや「ホームページ」にてご紹介させていただいております。

また、欠席生徒へ向けてオンラインでの授業配信も始めました。一日でも早くコロナウイルス感染症が終息し、マスクをしない日常が戻る日が待ち遠しいです。



「みつけた新しい形」

桑の実中目黒保育園 園長 會澤 利樹

私は桑の実中目黒保育園という60名定員の保育園に勤めております。毎日子どもたちの元気いっぴいの声に職員一同パワーをもらっています。

現在、新型コロナウイルス感染症により生活スタイルは一変し、保育園の中においても例外ではなく、食事から遊びまでコロナを意識した生活になってしまいました。この2年間、私たちは、生活や遊びのあり方をどうしたいのか真剣に悩み、様々な事を取り入れてきました。そこで考えた中の一つが、私たちの保育園には多数の姉妹園があり、その中でオンライン交流会を開催することでした。他の保育園がどんなところかお互いに紹介し、子どもたちにとっても、良い刺激となり「楽しかった」「次はいつやる?」「〇〇保育園のこんなところ凄かった」など、共に成長し合えるいい機会となりました。

私たちはコロナ禍の中で沢山、制限されたこともあります。こういった『新しい形』に出会えた事を前向きに受け止めて、これからも子どもたちの成長の一端を担うことができたらいいなと考えています。

